

使用教材…「星の花が降るころに」(一年)

東京都港区立赤坂中学校教諭
甲斐利恵子



この号より、新教材を使った授業をご紹介します。

今回は「星の花が降るころに」(二年)です。中学生の微妙な人間関係や、心情の描写がすばらしい作品ですが、一方で、子どもたちが感情移入しやすいため、「夏実ってひどい」など、感情をぶつけるような議論になってしまっていることも考えられます。

そこで今回は、客観的に作品を読む
第一歩として「作品のよさを語り合おう」という単元を設定しました。

第一時

学習の流れと目標の確認・作品のよさを述べるための言葉を知る

授業の冒頭では、私の失敗談を子どもたちに紹介しました。とてもよい映画を観たとき、家族に「すばらしい映画だった。いい話なの」「すべてのシーンがよかった」などと話したけれど、そのよさがさっぱり伝わらなかったこと、なぜだろうと考えているうちに、作品のよさを語り合うためには、そのための観点や言葉があると思いついたことを話しました。そして、「作品のよさを語り合う」ための言葉を学んでいきましょう、と話し、プリント1と3と付箋紙を配りました。

プリント1は、単元の学習の流れと、目標を示したものです。私はプリントに沿って、学習の流れと、目標である「作品のよさを発見する・作品のよさを表現する（提示された言葉を使って文章を書くことがで

きる)」を、子どもたちといっしょに確認しました。

プリント2は、「場面設定」「情景描写」など、作品のよさを述べるための言葉を示したものです。この単元でもとても重要な部分なので、丁寧に説明をしていきました。映画「となりのトトロ」を例に、「場面設定：迷子になったメイが見つかった場面がよかった」「情景描写：ネコバスがビュンビュン走る、あの描写がすばらしい」など、具体的な例を挙げながら言葉の説明をしました。これらは作品のよさを語る観点にもなります。

プリント3は、作品のよさを二百字でまとめた文章の例です。このような例文を見せると、子どもたちはこれから何を書くのかイメージしやすくなります。また、例文の中には「あたかも」という言葉を入れ、辞書で意味を調べさせました。「星の花が降るころに」では、「あたかも」という言葉が効果的に使われているので、事前に意

単元 作品のよさを語り合おう

「星の花が降るころに」

【学習の流れ】

- 一、学習の流れを知る（單元についての説明）
二、作品のよさを述べるための言葉を知る
三、「星の花が降るころに」を読む（朗読を聞く）
四、作品のよさを簡単に書く（ふせん紙に）
五、作品のよさについて友達のことを知る
六、どんな話だったかかむ（あらすじを百字で書く）
七、あらすじの確認
八、作品のよさを二百字の文章にまとめる（下書き）
▼作品のよさを語り、具体的に説明する
▼友達の発見したことをいただいてよい
九、作品のよさを二百字の文章にまとめる（完成）
▼文集原稿のできあがり！
十、文集「作品のよさを語り合おう」「星の花が降るころに」を読み合う
四時間目
五時間目
十一、まとめ
六時間目
①読んでコメントを書く
②コメントを読み合う
③講評
④学習のふりかえり

▲プリント1 学習の流れと目標を示している。

単元 作品のよさを語り合おう

「星の花が降るころに」

【物語を理解するために・あらすじを書く】

氏名（ ）

【よさを発見するためのびき】

■ 次の語いを参考に作品のよさを発見しよう！

- 人物設定（登場人物）
- 場面設定
- 心情表現
- 情景描写
- ストーリー展開
- 全体の構成
- 表現（言葉の使い方）
- セリフ
- 心情の変化
- ◎主題（作者の言いたいこと）
- 結末

※その他発見したことは何でも可。
自分なりの言葉でよい。

が、すばらしい！（

が、すばらしい！（

が、すばらしい！（

▲プリント2 あらすじを書く欄と、「場面設定」「情景描写」など、作品のよさを述べるための言葉が示されている。



単元 作品のよさを語り合おう

——「星の花が降るころに」

氏名()

【よさを表現するためのびき】

■先に示した語いを参考に作品のよさを200字で表現しよう！

【例】

「桃太郎」という作品は人物設定がすばらしい。
まずは、主人公の桃太郎である。桃太郎は桃から生まれるという不思議な出生の秘密を持った人物である。それだけでも何かが起こりそうな、物語への期待を抱かせる人物設定になっている。

▼人物設定
▼桃太郎
▼出生の秘密
▼何かが起こりそう
▼期待を抱かせる

さらに、桃太郎を助ける人物？の設定がすばらしく、きびだんごだけで鬼退治を申し出てくれる猿や犬やキジもこの物語に欠かせない人物である。

▼その他の人物も
▼どういう人物？

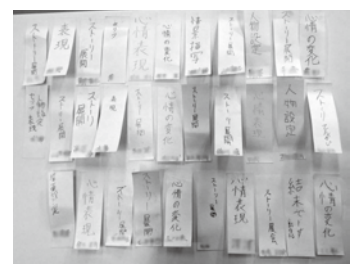
「にじの見える橋」という作品は少年の心情の変化に魅力がある。
何もかもうまくいかず、友達とも仲たがいをし、信号が点滅するだけでいらだつ少年の姿は、あたかも僕の日常生活のようである。

▼心情の変化
▼場面の説明
▼自分の考え・思い
▼心情の変化の確認

だが、この少年はにじと出会えたことで今の自分の状況を客観的に見ることができるようになる。そして、自分を恵まれたものに感じるのである。小さなできごとが人の心を変えていくということが見事に描かれている作品だ。

▼作品の魅力

▲プリント3 昔話「桃太郎」と、1学期に学習した「にじの見える橋」のよさをまとめた200字の文章を例として示した。



◀自分がよいと思った観点を付箋紙に書かせた。

第二時

作品のよさについて友達の考えを知る・あらすじをまとめる

前時で集めた付箋を見ながら、どうしてもその観点を選んだのか子どもたちにたずねました。すると、興味深い発言が次々として出されました。

「人物設定」を選んだ子たちからは「戸部君」や「掃除のおばさん」がいいという意見が出ました。また、「心情表現」を選んだ子からは「涙がにじんできたのはあんまり笑いすぎたせいだ、たぶん」の、『たぶん』がいい」という意見が出たり、「表現」を選んだ子からは「二人で

木に閉じ込められた」という表現がいい

「『星の花』という表現が何かを象徴しているような気がする」という意見が出されました。子どもたちは、前時で学習した言葉を使って、きちんと説明することができていました。また、友達の発言を聞くことで、自分の考えも深まっていたようです。その後、どんな話だったかつかむために、あらすじを百字でまとめさせました。

第三・四時

作品のよさをまとめる

まず、前時でうまくあらすじをまとめたいた子の文章を紹介しました。このときに、物語の大事な部分を押さえ、みんなで確認していきます。

その後、作品のよさを二百字の文章にまとめることを伝えました。「感想文ではありませんよ。使つてはいけない言葉があります」と話し、次のように板書しました。

- ・「私は、ぼくは」で始めない
- ・「すごい」を使わない
- ・「思った」を文末に使わない

さらに、プリント3の例文を見せながら、一段落目には「人物設定がすばらしい」「情景描写が魅力的だ」「表現が実にいい」など、自分が選んだ観点について書くこと、二段落目には自分の考えを具体的に書くこと、三段落目にはまとめを書くこと……を伝えました。

子どもたちが黙々と鉛筆を動かしている間、私は机間指導で、一人一人に丁寧にアドバイスをしていきます。書きだせず、行き詰まっている子には、「どこがよかったの？」とたずね、書きだしのみを私が書きます。そうすると、子どもは続けて言葉が出せるようになります。また、感想文になつてしまっている子には、「『と読者は思うだろう』という表現にしてごらん」と「読者」という言葉を使うように助言します。教師が少し言葉を修正したり補ってあげたりするだけで、子どもたちの文章は格段によくなっています。

第五・六時

文集「作品のよさを語り合おう」を読み合う

前時までにまとめた文章を集めて文集を作りました。それを配布し、全員で読んで

味を確認させたからです（おかげで、教科書P96の「——あたかもしれない」という部分を読んだとき、子どもたちからどっと笑いが起きていました）。

その後、「これから『星の花が降るころに』を読みます。何が魅力的かを意識しながら聞いてください」と投げかけ、本文を朗読しました。そして、付箋に「人物設定」「情景描写」など、自分がよいと思った観点を書かせ、全員の付箋を集めて、黒板に貼りました（上写真）。

いきました。ここでの指導のポイントは「とにかく褒めること」。どんな些細なことでも褒めて、その子の文章のよさを全員で共有していきます。子どもたちは、自分の観点で作品のよさをまとめることができていました。うまくまとめていたYさんの文章をご紹介します。

「星の花が降るころに」は、心情の変化が魅力的だ。
過去をひきずった私が、戸部君という男の子に勇気づけられ、変わっていく様を銀木屋の木を巧みに使って表している。そして、その銀木屋から私が出て行く姿は、実に感動的だ。

そして、私という、名前のない平凡な中学生の女の子の心情の変化は共感しやすく元気づけられる。この作品は私だけでなく、読者も心動かされる作品だ。

「作品のよさを語り合う」——作品を客観的に読む力は、文学作品を深く読解していくために欠かせません。一年生のこの時期にその力の基礎を育み、書いてよかったという達成感を実感させられれば、中学三年間の読みの学習が、もっと豊かになっていくことでしょう。